

青果物の流通費用に関する調査研究 VII

松田 延一

A Survey of Research Studies concerning the Cost of Distribution and Sale of Vegetables and Fruits VII

by

Nobukazu MATSUDA

は し が き

筆者は昭和45～47年の3か年間、名古屋中央卸売市場へ出廻った青果物につき、夏期と秋期の2回宛、合計6回にわたって、その流通費用を調査し、これまで第I～第VI報として報告した¹⁾。本稿はそれらの報告の総括である。

調 査 の 概 要

調査は毎年7～8月と、10～11月の2回にわけて行なった。調査品目は次の通りである。

夏野菜＝なす、きゅうり、たまねぎ、ばれいしょ、とまとの5種

秋野菜＝だいこん、はくさい、キャベツ、にんじん、さつまいもの5種

夏果物＝すいか、もも、プリンスメロン(45年は除く)の3種

秋果物＝みかん(温州)、りんご(スターキング)、かき(富有)、なし(二十世紀)、ぶどう(デラウエア)(46年を除く)の5種

次に産地から市場までの費用は、出荷者に対するアンケート調査によった。このために中央卸売市場で取引せられる以前に陳列しある荷物によって、出荷者を調べた。そしてこの市場での調査は各調査期間に3回宛行なった。卸売価格を中心とする流通費用などの分析はこのアンケート調査の結果によったことはいうまでもない。品目別のアンケート回収状況を示すと表1の如くである(表1参照)。

表1 品目別産地別アンケート回収状況

品 目	産 地	発信総数	有 効 回 答 数
な す	愛知9 岐阜5 三重5 京都5 兵庫4 山梨4 滋賀1	65	33
き ゅ う り	愛知20 長野9	56	29
た ま ね ぎ	兵庫8 愛知6 岐阜4	35	18
ば れ い し ょ	愛知14 三重1 静岡1 千葉1 岡山1 長崎1	35	19
と ま と	愛知12 三重5 長野3 岐阜2 栃木1 京都1	74	27
だ い こ ん	愛知13 岐阜4 長野2 新潟1	69	20
は く さ い	長野20 愛知2 岐阜2 群馬1 北海道1	52	26
キ ャ ベ ツ	長野11 愛知9 三重1 岐阜1 北海道1	48	23
に ん じ ん	愛知4 北海道4 岐阜3 静岡3 長野2	33	16
さ つ ま い も	愛知8 静岡4 茨城2	28	14

品 目	産 地	発信総数	有 回 答 対 数
す い か も も プリンスメロン	愛知27 静岡5 青森3 秋田2 千葉2 山形1 鳥取1	148	41
	山梨8 愛知6 長野4 福島3	41	21
	愛知2 岐阜1 青森1	20	4
み か ん り ん ご か き な し ぶ ど う	静岡15 愛知11 三重6 和歌山4 愛媛3 岐阜1 高知1	95	44
	徳島1 佐賀1 熊本1		
	福島11 長野6 青森6 宮城1	54	24
	岐阜10 愛知3 奈良2 三重1	42	16
	長野4	12	4
長野1	8	1	
	合 計	913	380

有効回答率 41.6%

注 なしとぶどうは時期的理由から調査件数が少なかったために、以下の集計からはこれを省き、参考として掲げることとした。

次に小売価格を中心とする調査は、調査員が店頭において、調査期間に、3～4日おきに3回、正札によって調査したものの平均を求めて小売価格とした。その小売店数は表2の如くである。(表2参照)

表2 小売店の性格別調査店数

調査時期	公 設	私 設	八百屋	スーパー	スーパー ストア	専門 店	デパート	計
45年 7 月 10～11	3	5	2	6	—	—	5	22
	2	7	2	4	—	2	6	23
46 7 10～11	3	17	24	12	2	10	4	72
	2	15	10	13	2	25	5	72
47 7 10～11	6	23	33	23	6	10	5	117
	1	28	48	11	6	22	4	120

注 公設は公設小売市場、私設は私設小売市場、スーパーはスーパーマーケットの意である。

小売店における売り上げは、荷造単位量の何%かは、目減り、腐敗、品傷み、掛け込みなどによって減少する。これを廃棄部分として、荷造原単位量から控除し、小売店における正味販売量を推計し、これに前記の小売価格を乗じて、小売商の売上高とした。(第Ⅰ、Ⅱ報参照)

この場合の卸売価格は調査期間における新聞発表の卸売仲値の平均によることにした。このようにして得た卸売価格を小売商の売上高と、アンケート調査による産地から卸売市場までの流通費用とから、流通段階の諸費用仲間商人のマージン、生産者取得などを計算した。

調 査 結 果

1) 卸売価格を中心とする分析

先づ卸売価格を中心とする調査を集約すると、表3の如くである。これによると、年次的

に、大きな変化をみせているのは、運賃、荷造費および生産者取得の比率である。これは卸売価格の変動（後述）にもよるが、また調査年によって産地の市場からの距離の差があることにもよるものである。例えば昭和45年の野菜の産地は、近郊的産地が多く、運賃、荷造費も少なくてすんだ例が多く、46年、47年は遠郊的産地が多かったために、45年に比べるとそれらの比重が大きくなっている。そのため生産者取得率は45年が高く、46年、47年は低くなっている。従ってこの3か年の平均の数値が、大体において平均的な代表値に近似するものと考えられる。

果物もこれとほぼ同様な状況にあるが、しかし、46、47年は45年よりも卸売価格が高かったために、生産者の取得率は、45年よりも大きくなっていることを見逃してはならない。また野菜よりも、果物の方が、商品としての内在価値 (intrinsic value) が大きいから、荷造、包装、運賃などの物的な流通費用率の低いことも注目しなければならない。このことは、果物が野菜に比べると、生産者取得率を相対的に大きくすることになる。(表3参照)

表3 卸売価格を中心とする流通費用，生産者取得

項 目	A 野 菜								野菜果物	
	夏 期				秋 期				平 均	総 平 均
	45	46	47	平均	45	46	47	平均		
運 賃	5.6	8.9	7.5	7.3	5.2	13.0	16.3	11.5	9.4	
荷造包装費	14.0	14.7	10.8	13.2	10.3	15.9	18.9	15.1	14.1	
検 査 料	0.0	0.3	0.4	0.2	0.1	0.4	0.2	0.2	0.2	
組合手数料	1.1	1.4	1.7	1.4	0.5	2.9	2.3	1.9	1.7	
そ の 他	0.1	0.2	0.3	0.2	—	0.4	0.6	0.3	0.3	
以上小計	20.8	25.5	20.7	22.3	16.1	32.6	38.7	29.0	25.7	
仲卸人手数料	8.1	8.2	8.3	8.2	8.2	8.3	8.3	8.3	8.3	
生産者取得	71.1	66.3	71.0	69.5	75.7	59.1	53.3	62.7	66.1	
B 果 物										
運 賃	6.8	10.1	9.7	8.9	4.3	4.4	4.7	4.5	6.7	8.1
荷造包装費	9.4	21.6	16.7	15.9	10.9	15.3	11.1	12.4	14.3	14.1
検 査 料	2.5	0.0	0.6	1.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.6	0.4
組合手数料	0.7	1.0	1.8	1.4	2.4	2.6	2.2	2.4	1.9	1.8
そ の 他	0.2	0.7	0.2	0.4	0.4	0.4	0.7	0.5	0.4	0.4
以上小計	19.6	34.0	29.0	27.5	18.0	22.9	18.7	19.9	23.8	24.8
仲卸人手数料	7.5	7.4	7.0	7.3	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.6
生産者取得	72.9	58.6	64.0	65.2	75.0	70.1	74.3	73.1	69.2	67.6

2) 小売価格を中心とする分析

次に小売価格を中心とする流通費用生産者取得などをみると表4の如くである。

これによると、小売価格に対する卸売価格の割合は60%程度、出荷費用は野菜は果物よりやや多く、16~17%程度、果物は14~15%、中間商人のマージンは野菜は果物よりやや多く45%程度、果物42~43%、流通費用の合計は、野菜62~63%、果物57~58%、生産者取得は野菜36~37%、果物42~43%程度となっている

これはもちろん平均的なことである。場合により、また品目によって差異のあることはこれまでの調査報告Ⅰ~Ⅵにおいてみた通りである。

表4 小売価格を中心とする流通費用生産者取得 (小売価格=100) (%)

調査対象	調査時期		卸売価格 (1)	出荷費用 (2)	マージン			流通費用計 (2+3+4) (+5)	生産者取得 (1-2+3)
	年次	時期			仲卸人 (3)	仲買人 (4)	小売商 (5)		
野菜	45	夏期	54.0	15.8	4.3	5.4	40.6	66.1	33.9
	46	〃	55.9	17.1	4.6	5.4	38.7	65.8	34.2
	47	〃	65.4	16.1	5.4	6.4	28.1	56.1	43.9
	平	均	58.4	16.3	4.8	5.8	35.8	62.7	37.3
	45	秋期	55.8	14.5	4.5	5.4	38.8	63.2	36.8
	46	〃	60.9	15.3	5.1	6.1	32.8	59.3	40.7
	47	〃	60.3	23.7	5.0	6.0	33.7	68.4	31.6
	平	均	59.1	17.8	4.9	5.8	35.1	63.6	36.4
	平	均	58.8	17.1	4.8	5.8	35.4	63.1	36.9
果物	45	夏期	65.7	16.3	5.0	4.6	29.8	55.7	44.3
	46	〃	63.1	15.1	4.7	6.3	30.6	56.7	43.3
	47	〃	59.7	17.0	4.2	5.9	34.4	61.5	38.5
	平	均	62.7	16.1	4.6	5.6	31.7	58.0	42.0
	45	秋期	56.2	17.2	3.9	5.6	38.2	64.9	35.1
	46	〃	56.5	9.9	3.8	5.7	37.8	57.2	42.8
	47	〃	71.4	13.4	5.0	7.1	21.5	47.0	53.0
	平	均	61.4	13.5	4.2	6.1	32.5	56.3	43.7
	平	均	62.1	14.8	4.4	5.8	32.1	57.1	42.9
野菜果物平均			60.5	16.0	4.6	5.8	33.8	60.1	39.9

つぎに調査期間における価格の変動と流通費用、生産者取得、小売商マージンの動きをみると、概ね価格の高いときは、生産者取得の小売価格に対する比率は高く、出荷費用と小売商マージンとは、その反対に低くなるというように、反対の方向に動いている。詳しくは表5参照。

表5 1kg当り価格の推移 (円)

品目	卸売価格			小売価格		
	45	46	47	45	46	47
なす	46.0	37.5	77.3	94.8	75.5	162.9
きゅうり	55.8	43.7	93.8	153.1	91.5	139.2
はまねぎ	31.4	23.6	26.0	66.5	50.5	52.5
ばれいしょ	29.8	43.9	44.7	62.3	87.3	88.4
とまと	65.0	46.3	115.3	136.0	128.8	195.5
平	45.6	39.0	71.4	102.5	86.7	127.7
だいきん	20.7	76.6	21.4	93.2	136.1	63.7
はくさい	34.8	51.0	19.2	68.2	110.7	37.2
キャベツ	95.0	82.1	19.9	183.7	133.2	34.5
にんじん	56.3	73.2	57.6	128.5	126.6	131.1
さつまいも	43.8	43.8	36.7	87.6	117.0	71.8
平	50.1	65.3	31.0	118.2	124.7	57.7

品目	卸売価格			小売価格		
	45	46	47	45	46	47
すいか	99.8	47.9	44.7	159.2	93.0	81.8
もも	140.0	190.8	126.2	287.6	335.6	268.7
プリンズメロン	—	110.2	108.8	—	214.3	212.6
平均	119.9	116.3	93.2	223.4	214.3	187.7
みかん	92.9	101.3	84.9	161.0	191.6	145.2
りんご	91.8	106.4	129.8	163.4	225.0	197.7
かき	90.4	123.2	105.3	265.9	213.8	171.7
平均	91.7	110.3	106.7	196.8	210.1	171.6
なぶ	84.7	89.6	—	183.7	187.0	186.5
どう	—	277.5	—	—	726.1	—

表6 生産者取得, 小売商マージン, 出荷費用の累年比較

(小売価格=100)

品目	生産者取得			小売商マージン			出荷費用		
	45	46	47	45	46	47	45	46	47
なす	35.4	34.0	45.7	37.1	37.9	32.9	17.1	17.7	10.3
きゅうり	25.3	33.4	56.0	55.6	41.8	17.7	11.9	15.0	12.8
たまねぎ	36.9	33.9	26.1	35.1	35.8	32.8	17.3	19.5	29.9
ばれいしょ	36.7	43.5	41.0	38.8	26.5	35.4	14.5	19.1	12.9
とまと	35.0	26.1	51.0	36.4	51.8	21.4	18.0	14.0	14.6
平均	33.9	34.2	44.0	40.6	38.8	28.0	15.8	17.1	16.1
だいこん	30.4	50.4	39.0	38.8	27.1	37.0	20.8	10.4	13.6
はくさい	22.7	30.9	16.7	49.6	40.6	29.7	19.5	18.6	41.8
キャベツ	52.0	51.8	25.7	28.4	20.2	25.6	7.9	14.7	36.3
にんじん	39.0	37.9	30.6	42.8	25.7	43.7	8.8	23.9	16.3
さつまいも	39.9	32.4	46.0	33.7	50.4	32.2	15.4	9.0	10.6
平均	36.8	40.7	31.6	38.7	32.8	33.7	14.5	15.3	23.7
すいか	51.7	48.0	44.4	23.2	34.5	30.5	14.4	6.4	14.4
もも	37.0	55.3	39.0	36.4	23.1	37.0	18.2	9.7	14.3
プリンズメロン	—	26.3	32.1	—	34.3	35.7	—	29.2	22.3
平均	44.4	43.2	38.5	29.8	34.0	34.4	16.3	15.1	17.0
みかん	44.8	44.9	49.5	28.9	36.4	28.0	15.5	8.9	11.4
りんご	38.1	39.1	50.5	28.4	39.7	16.8	22.4	11.9	19.8
かき	27.0	56.4	58.9	55.0	23.9	19.7	11.0	7.9	9.0
平均	36.6	46.8	53.0	37.4	33.3	21.5	16.3	9.6	13.4
なぶ	30.6	36.7	—	40.6	38.3	—	19.7	15.5	—
どう	—	36.5	—	38.2	50.6	—	—	5.3	—

表7 卸売価格の変動と生産者取得流通費用の動き (小売価格=100)

種類	調査時期	生産者取得率			小売商マージン			出荷費用		
		45	46	47	45	46	47	45	46	47
野菜	夏 期	33.9	34.2	44.0	40.6	38.8	28.0	15.8	17.1	16.1
	秋 期	36.8	40.7	31.6	38.7	32.8	33.7	14.5	15.3	23.7
果物	夏 期	44.4	43.2	38.5	29.8	34.0	34.4	16.3	15.1	17.0
	秋 期	36.1	47.2	53.0	37.4	42.9	21.5	16.3	9.6	13.4

種類	調査時期	対前年卸売価格	生産者取得率	小売商マージン
野菜	夏 {46 47}	下上	上上	下下
	秋 {46 47}	上下	上下	下上
果物	夏 {46 47}	下下	上下	下上
	秋 {46 47}	上上	上上	上下

備考 表中上, 下は対前年の上, 下を示す

もちろん、卸売価格が高い場合でも、市場への入荷量が多いときには、小売商人の取扱量も自然に増大するから、マージン率を低くしても経営的に成立する場合もある（第Ⅵ報参照）。このように小売商人の立場からいえば、マージンの率そのものよりも、全体としてある水準以上のケージンをどのようにしてうみだすかが問題である。卸売価格とその取扱数量、需要の動向などを勘案して小売価格を決定し、そこからマージンを求めるのである。

次に卸売価格の変動によって特に著しい影響を受けるのは出荷者（生産者）であることは、すでに第Ⅲ、Ⅴ報において述べたが、このことは表5～7からも看取せられる。また小売商人にとっては、卸売価格の上昇は必ずしも、そのマージンを大きくすることにはならないと、第Ⅵ、Ⅴ報でも述べたが、このこともこの表から窺われる。（表5～7参照）

これに対して、仲卸人、仲買人のマージンは定額手数料であるために、当然卸売価格の上昇はそのマージンを大きくする方向に作用する。

次に、小売店の性格による小売価格の相異についてみると、前報までにみたように、調査時期により、種類により、必ずしも明瞭な帰一的傾向は認められなかった。しかし、果物専門店と百貨店とは高く、八百屋・私設・公設は安く、スーパーなどセルフサービス店は概して、これら2つのグループの中間に位するものの如くである。スーパーマーケットが安いといわれたのは数年前までで、昭和46～7年頃から、必ずしもそうでなくなったといわれているが、この調査からもそれがいえる。（第Ⅴ、Ⅵ報参照）

また地域別に小売価格の高低を調べたが、この調査から、一般的な結論を下すことはできないが、概ね高級住宅地を含む千種・瑞穂などが高く、スーパーマーケットや私設市場などの多い商業地域は安いといえる。（第Ⅴ、Ⅵ報参照）

考 察

以上本調査の総括的結果と他の調査結果との比較を試み、本調査結果の妥当性を考えてみよう。

この種の調査としては、農林省の青果物流通費調査がある。この調査は、青果物の産地から市場までに要する出荷経費に関する調査を、仲卸および小売経費を中心とする流通費用調査に分かれている。

1) 青果物出荷経費調査

これは産地から卸売市場で販売せられるまでの諸費用を調査したもので、野菜はだいこん・にんじん・はくさい・きゃべつ・ねぎ・ほうれんそう・とまと・きゅうり・なす・かぼちゃ・ピーマンなど17種、果物はみかん・りんご・なし・かき・ももなど10種について、野菜261団体、果物164団体について、事例的に調査したものである。その結果につき、本稿と関連ある部分を示せば表8の如くである。

表8 集出荷から市場で卸売されるまでの経費

	野 菜 (17種の平均)	果 物 (10種の平均)
卸 売 価 格 (1)	100.0	100.0
集 出 荷 経 費	23.4	18.0
出 荷 運 送 料	8.2	6.0
団体手数料および負担金	1.6	1.1
卸 売 手 数 料	8.2	6.9
以 上 計 (2)	41.4	32.0
荷 主 交 付 金 (3)	1.3	0.7
生産者受取価格(1-2+3)	60.0	68.7
調 査 品 目	だいこん・にんじん・はくさい・きゃべつ・ねぎ・なす・とまと・ピーマン・きゅうり・かぼちゃ・青さやえんどう・ほうれんそう・たまねぎ・れんこん・さといも・レタス・セルリ	みかん・なつみかん・りんご・なし・かき・ぶどう・もも・びわ・いちご・すいか

農林省農林経済局統計情報部：「昭和46年青果物集出荷経費調査」により計算した。

この調査は青果物の集出荷費用を詳しく分け、包装荷造材料費・選別荷造労働費・減価償却費・資本利子・その他の経費に分類して調べている。本稿で筆者は、荷造材料費・選別・包装・荷造労働費との2項目にしぼって調査し、減価償却費・資本利子・その他の経費は特にあげず、これを上記の荷造包装費の中に含ましめるものとして取扱った。通例、荷造単位量当りいくらという荷造包装費を組合員から、組合が徴集する場合、上記の経費が含まれていると判断せられるからである。

さて表7をみると産地から市場までの出荷経費の卸売価格に対する割合は、野菜41.4%、果物32.0%となり、生産者取得は、野菜60.0%、果物68.7%となっている。この生産者取得の中には、仲卸人から荷主への交付金が含まれているから、これを除くと、野菜では59.7%、果物

68.0%となり、野菜は筆者の調査結果より幾分少なく、果物は大体同じ程度になっている。野菜の場合に集出荷経費が、筆者の場合よりも多くなっているからであり、それは選別・荷造り労賃・材料費の見積の相異によるものと考えられる。

2) 青果物流通経費調査

この調査は青果物の仲卸および小売段階における流通経費・仲卸および小売店の経営状況を明らかにするために行なわれたものである。この目的のために6大都市など18都市において、野菜43, 果実51, 合計94店舗につき帳簿その他によって調査せられたものである。

今、拙稿の結果と比較するために、この調査結果の中から、大都市の平均についてみよう。まづ小売商の取得分の小売価格に対する割合を計算してみよう。

農林省のこの調査は小売店の営業状態の把握に重点がおかれているが、その基礎になる仕入価額・販売金額・仕入量などから、拙稿の調査結果に見合う数字を計算すると、表9の如くなる。この表における売上高は拙稿における小売価格に対応するものであり、売上高と仕入金額との差額は、小売商取得（マージン）に相当する。従ってこれが売上高に対する割合は、拙稿の小売商の取得率に対応する。

表9 大都市における小売店一店当り収支

1. 野菜

	平均	普通店	スーパー・セルフサービス店
1トン当り仕入金額 (1)	67,730円	67,822円	66,071円
営業費 (2)	16,397	16,327	17,657
売上高 (3)	86,991	87,182	79,800
3-1 (4)	19,264	19,360	13,729
マージン (4÷3) (5)	22.1%	22.2%	17.2%
年間取扱高 (6)	243.2トン	216.3トン	127トン
トン当り営業所得 (7)	5,538円	6,057円	- 3,778円
年間所得 (6×7) (8)	1,346.8千円	1,310.1千円	- 479.8千円

2. 果物

	平均	普通店	果実専門店	スーパー・セルフ方式店舗
1トン当り仕入金額 (1)	103,754円	102,063円	107,523円	107,340円
営業費 (2)	22,721	19,780	30,682	20,496
売上高 (3)	132,505	128,988	141,016	135,954
3-1 (4)	28,751	26,925	33,493	28,614
マージン (4÷3) (5)	21.7%	20.9%	23.8%	21.1%
年間取扱高 (6)	163トン	319トン	449トン	408トン
トン当り営業所得 (7)	10,284円	10,576円	9,923円	7,975円
年間所得 (6×7) (8)	1,676.3千円	3,373.7千円	4,455.4千円	3,253.8千円

農林省統計情報部：「昭和46年青果物流通経費調査報告」により計算

これによると小売商の取得率は小売価格のおよそ20%程度で、拙稿の場合よりも約10%低くなっているが、これは少しく低過ぎるように思われる。その理由、農林省の調査が示す小売店

1店当りの年間取批高，1トン当りの営業所得から，年間の営業所得を算出すると，所得が少しく低過ぎること，次に小売店の性格別の年間営業所得をみると，野菜において，スーパーマーケットなどセルフサービス店が，マイナスとなっていることなどがあげられる。これは恐らく売上高の過小評価によるものと推察せられる。

次に農林省の野菜についての追跡調査をみよう。

3) 野菜の流通段階別調査報告

これは昭和47年の秋，東京および大阪市内における追跡調査を，小売店を起点に，生産地へと，商品の流れとは逆の方向に追跡して調査したものである。その結果につき，拙稿と関連する部分を示すと表10の如くである。

表10 野菜の流通段階別価格構成比 (小売価格=100)

	生産者 受取価格	計	出荷経費	仲卸 手数 人料	卸売価格	卸売価格と 小売価格との 差	小売価格
野菜7種の平均	42.4	23.3	17.7	5.6	65.7	34.3	100.0
調査品目	だいこん(6団体)，はくさい(3)，きゃべつ(4)，とまと(7)，きゅうり(5)，たまねぎ(4)，ピーマン(4)，レタス(6)の8種，36団体の平均						
調査時期	昭和47年11月中旬						

農林省統計情報部：「野菜の流通段階別価格追跡調査報告」11頁による

この表における卸売価格に仲買人手数料を加えたものが，小売商の仕入価格であり，これと小売価格との差が，小売商取得分になるはずである。そこで本稿と同じ仲買人の手数料を援用すると（仮りに卸売価格の10%とすると），小売商の仕入価格は，小売価格の72.3%（65.7%+6.6%）となる。従って小売商の取得率は27.7%（100-72.3%）となり拙稿の調査結果（33.7%，表の47年の野菜の平均）に近似することになる。

4) その他の調査

その他の調査の1例として，筆者が昭和6～7年に京都市において，京都市中央卸売市場へ出廻る野菜（昭和6年秋，野菜・果物6種類ずつ，昭和7年夏，野菜・果物8種類ずつ調査小売店数，昭和6年128店，7年138店）について調査したものがあつた。この調査結果と今回の調査と比べると，荷造，包装費の割合が低下し，生産者取得率の上昇が起つていることが，特に注目せられる。その他の流通費用の比率は殆んど大差が認められない。（第I報参照）

さて本調査は，上記の諸調査とともに，1つの事例調査ではあるが，青果物の流通費用の内容を概観するに役立つものと思う。この種の調査は元来，いくつかの困難を伴うものであるから，正確には把握し得ない場合があるし，仮りに，その時，そのものについては正確に把み得たとしても，それをもって他を，一般的なものとして推し測る材料とはなし難い。それ故に，事例的調査としてながめつつ，しかも一般的傾向をうかがうに足るような調査方法や資料の蒐集を行なう必要がある。本稿はこのような要求をできるだけ充たすべく努力したつもりであるがなお幾多の問題を残したことを認めざるを得ない。

結 び

以上における本調査結果に対する評価乃至は位置付けによって，本調査結果のもつ意義を省

察したが、紙面の都合でなお論ずべくして、説き及ばなかった幾つかの問題が残された。例えばこの調査においてとりあげた小売価格それ自体の形成の問題、従って小売店の性格別小売価格についての深い省察、小売価格の地域差の問題、さらには、青果物の流通費用節約の可能性の問題などそれである。こうした問題の検討は後日の機会にゆずることとする。

稿を終るにのぞんで、本査調に協力せられし出荷者、農協の方々、また終始好意を寄せられた名古屋市中央卸売市場業務課調査係、名古屋青果の関係者およびゼミの学生諸姉に対し厚く感謝の意を表しておく。

参 考 文 献

- 1) 拙稿；1971：青果物の流通費用に関する調査研究 I 名古屋女子大学紀要 17, 125～133
- 2) 拙稿；1972：同Ⅱ，同紀要 18, 253～261
- 3) 拙稿；1972：同Ⅲ，同紀要 18, 263～274
- 4) 拙稿；1973：同Ⅳ，同紀要 19, 107～115
- 5) 拙稿；1973：同Ⅴ，同紀要 19, 117～123
- 6) 拙稿；1974：同Ⅵ，同紀要 20, 29～36
- 7) 拙稿；1938：青果小売価格に関する調査研究 A5, 87頁
- 8) 農林省農林経済局統計情報部；1973：昭和46年青果物流通経費調査報告 A5, 63頁
- 9) 農林省統計情報部；1973：野菜の流通段階別価格追跡調査報告 A5, 13頁
- 10) 農林省統計情報部；1972：昭和46年青果物集出荷経費調査報告 A51, 99頁